

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

◆
出会いは成長のタネ杏林大学
原田 祐輔

1年ほど前に依頼をいただいていたこの原稿ですが、当時は他の仕事との兼ね合いで延期をお願いしました。依頼を断るのは初めてのことだったため、成長の機会を逃したのではないかと悔やむこともありましたが、再びチャンスをいただき、この貴重な機会に筆を取らせていただいています。

人は生涯で約3万人もの人々と出会うと言われていいます。作業療法士として活動される皆さまも、これまでに多くの出会いを経験されていることでしょう。「今の自分に影響を与えた出会いは何か」と問われたとき、どのようなエピソードが思い浮かびますか？

私にとって大きな出会いの一つは、神奈川県某の病院に勤めていた際に、作業療法部門の責任者を務めていた私の直属の上司であったAさんです。Aさんは、私が臨床で困難に直面したとき、常に考える余地を残しつつ、さりげなくサポートしてくれる存在でした。Aさんは「人に魚を与えれば1日で食べてしまうが、釣り方を教えれば一生食べていける」という姿勢で私に接し、自分で考え、学び続けることの大切さを教えてくれました。釣り方も一辺倒ではなく、状況に応じて変えることの柔軟性も教わりました。Aさんのこうした姿勢から、先輩が後輩に与える影響の大きさも学びました。それが、私の卒前教育への関心を引き出すきっかけとなりました。

また、現職の養成校に勤めるようになった後、Bさんとの出会いも大きな影響を与えました。Bさんに「認定作業療法士の研修会は受けていますか？」と尋ねられたとき、私は咄嗟に「まだあまり受けていませんが、取れば良いなと思っています」と返

答したように思います。実際は、忙しさに追われ、優先順位をつけていなかった目標が、言葉にすることで現実味を帯び、意識が変わりました。さらに、Bさんの真摯に臨床に向き合う姿勢に触れ、私も自己研鑽への意欲を強め、認定作業療法士取得への想いが一層高まったことは言うまでもありません。

AさんやBさんをはじめ、私の成長に大きな影響を与えてくださった方々は多くいます。臨床研究の重要性を教えてくださいましたCさんや、都士会のブロック活動で出会ったエネルギッシュなDさんなど、ここではお示しきれない数々の出会いが現在の私を形作っています。しかし、出会いそのものが成長を保証するわけではありません。出会いはあくまでタネに過ぎません。それを育て、花を咲かせるかどうかは自分次第です。

皆さまにも、これまでの出会いの中で成長のタネを育ててこられたエピソードがあることでしょう。出会いは必ずしも好ましいものばかりではありませんが、その中に潜むチャンスを見逃さず、育てていくことが大切です。人との出会いに限らず、環境や物との出会いも成長の一部です。

作業療法の発展のために、互いにさまざまな出会いを大切にし、共に切磋琢磨しながら成長していければ嬉しく思います。皆さまが良い出会いや成長に巡り会うことを心から願いつつ、原稿を締めさせていただきます。

CONTENTS

- ◆ 出会いは成長のタネ…①
- ◆ 日本小児リハビリテーション医学会参加報告…②
- ◆ 第21回 東京都作業療法学会実行委員会が発足しました…③
- ◆ 第51回 国際福祉機器展H.C.R.2024福祉機器相談コーナー 報告…③
- ◆ 保険部 Letter 診療報酬改定情報：…④
- ◆ 「精神科地域包括ケア病棟入院料」について…④
- ◆ 事業部活動報告…④
- ◆ 子ども委員会活動報告…⑤
- ◆ 交流会を行いました…⑤
- ◆ 地域づくり人材育成研修を終えて…⑤

- ◆ ～目黒区の実践報告～…⑤
- ◆ 活動報告：認知症の日／アルツハイマー月間…⑥
- ◆ 認知症にやさしい本の紹介 VOL.47…⑥
- ◆ 生活行為工夫情報事業の事例活用の報告…⑦
- ◆ 改造車の運転体験と指導方法を学ぶ研修会のお知らせ…⑧
- ◆ 就労支援委員会主催…⑧
- ◆ オンライン就労支援事例検討会＆研修会のお知らせ…⑧
- ◆ OT都士会災害派遣登録バンクのご案内…⑨
- ◆ ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆ 都士会公式SNSの紹介…⑫

日本小児リハビリテーション医学会参加報告

9月6日、7日に第4回日本小児リハビリテーション医学会学術集会（@東京未来大学堀切キャンパス）が開催されました。本学会は「誰ひとり取り残さない未来のために」をテーマとして掲げており、当日は専門職だけでなく当事者・家族も参加できるインクルーシブ広場を設けていました。都士会はその広場にブースを出展しOTの啓発をしました。運営は、子ども委員会と事業部のスタッフで協同して行いました。それぞれのスタッフに出展した感想を書いてもらいましたので、どうぞご覧ください！

子ども委員会 港区立障害保健福祉センター 小出 由貴子

はじめて日本小児リハビリテーション医学会に出展し、まだまだ、作業療法士が知られていないことに気付かされました。ブースを覗いてくださった方は、教育心理系、臨床工学、こども用品を開発している企業の方など様々でした。どのように作業療法士が関わりをもつのかをきかれることもあり、様々な分野・領域と作業療法がどのように繋がるのかを伝えていく必要性を感じました。そして、生活行為工夫情報の一部紹介は、他分野の人が興味深くみてくださり、作業療法士を知っていただくきっかけになったと思います。これからも、様々な分野、領域の方に作業療法を広め、繋がりをもっていきたいと感じました。

事業部 医療法人社団 苑田会 花はたりリハビリテーション病院 大館 哲詩

初めて日本小児リハビリテーション医学会にブース出展させていただきました。学会なので医師や看護師、PT、OT、STなどの参加が主ではありましたが、ブース出展させていただいたスペースでは当事者や保護者の方の来場も多かったのが印象的でした。特に生活行為工夫情報の一部は興味を持っていただけたようで、熱心に読んでくださる方も多かったです。OTとして生活行為工夫情報を常にアップデートして備えておくことの有用性を感じました。イベントスペースでは東京ヴェルディによるダンス・体操の時間や、できわかクリエイターズとのポッチャ対決などが盛況でした。さまざまな専門職や団体が当事者や保護者に向けて活動や発信を精力的に行っているのを感じ、都士会としても負けじと作業療法の啓発活動を引き続き頑張りたいと思いました。



第21回 東京都作業療法学会実行委員会が発足しました

学会実行委員長 いずみ記念病院 大瀧 直人

次年度に行われる「第21回東京都作業療法学会」の実行委員会が発足されました。

本学会は区東部区東北部ブロックが担当いたします。

現在は、ブロックの運営に携わるメンバーを実行委員として、どのような学会にするのか企画内容を検討している段階です。

昨年度、今年度と参集いただく学会を再開して以降は、コロナ禍前よりも参加人数も企画もよりパワーアップした学会が実施されて参りました。この流れを受け継ぎながらも、テーマをもとに地域特性を活かしつつ、今だから取り組むべきことに目を向け、多くの皆様がより参加しやすい学会を作るべく検討を進めています。

2024年末には演題募集を開始する予定ですので、これからも都士会ニュース、HP、SNSなどで順次発信してまいります。学会に関する案内に是非ご注目下さい。

【開催概要（予定）】

第21回 東京都作業療法学会

日 程：2025年7月13日（日）

会 場：東京都立大学 荒川キャンパス

テーマ：Now or Never ～今、できること～

学会長：中里 武史（東京都作業療法士会 事務局長）



学会プロモーション
動画はこちら



学会ホームページ
できました

「Now or Never -今、できること-」に込めた想い

学会長 中里 武史

いわゆる「2025年問題」などの大きな分岐点となる年を迎えて「今、自分たちに何ができるのか」、作業療法に取り組むだけでなく、作業療法士を取り巻く環境に対しても「今、何ができるのか」をテーマに2025年度の学会は「やるなら今！=Now or Never」を考えた学会として体現していきたいと思っています。よりよい学会を次につなげていくためにも皆さまのご支援ご協力を宜しくお願い致します。

第51回 国際福祉機器展H.C.R.2024 福祉機器相談コーナー 報告

福祉用具部 山下 久美子

2024年10月2日（水）～4日（金）の3日間、東京ビックサイトにて第51回国際福祉機器展H.C.R.2024が開催されました。相談員として参加した報告をいたします。

今年度の出展社は、約400社、来場者は、3日間合わせて120,041人と大変活況に満ちたものでした。今年度も日本作業療法士協会では、「作業療法士による福祉機器相談コーナー」を出展し、東京都士会、神奈川県士会、千葉県士会の福祉用具に関わる部員が相談員として参加しました。相談件数については、3日間で67件あり休憩をとることも難しい時間帯もあるほどでした。相談は、当事者や支援者からの相談の他、企業の方、研究機関の方などからあり、実に多様な相談を受けました。日頃、福祉用具の選定で悩んでいらっしゃる方もおられるかと思えます。日本作業療法士協会では「福祉用具相談支援システム」にて福祉機器の悩み、相談を受けておりますので、是非活用してみてください。



保険部 Letter 診療報酬改定情報： 「精神科地域包括ケア病棟入院料」について

保険部・医療法人社団永生会 永生病院 野口 僚子

今回は2024年の診療報酬改定で新設された、「精神科地域包括ケア病棟入院料（1日1,535点）」について取り上げます。

「精神科地域包括ケア病棟」は、精神疾患の方の地域移行・地域定着に向けた重点的な支援を提供する精神病棟で、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを支える役割を担うことが期待されています。そのため、主に精神疾患の急性期治療後の方や、在宅療養を行っている患者等の受入れ・在宅復帰支援等を行う機能を有する必要があります。

施設基準として「専任の常勤作業療法士、常勤精神保健福祉士および常勤公認心理師が配置されていること」や、「当該病棟において日勤時間帯に作業療法士、精神保健福祉士または公認心理師が1人以上配置されていること」など、作業療法士の職名が記載されています。

2014年の診療報酬改定で新設された「地域包括ケア病棟入院料」に名称が似ていますが、入院料が算定できる上限が「精神科救急急性期医療入院料、精神科急性期治療病棟入院料及び精神科救急・合併症入院料を算定した期間と通算して180日」であることや、前述の施設基準など、異なる点が多いため注意が必要です。

詳しくは診療報酬改定情報などをご覧ください。

厚生労働省診療報酬改定情報ページ：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00045.html

事業部活動報告

事業部 大館 哲詩

都立大学のオープンキャンパスに事業部員やブロックのスタッフで参加させていただきました。200名以上の来場があり、30名近い方の相談対応をしました。来場者にはアンケートをとらせていただきましたが、その中の「作業療法（士）という職業はどのようなイメージですか？」という質問に対しても色々な回答をいただきました。「幅広く活動できる職業」「生活全体をサポートする」「障害を持っている方などの生活を支えるイメージ」など、間違っていないのですが、全体的に具体性に欠けているような印象を受けました。これは決して学生の問題ではなく、私たちのPR不足なのだと思います。実際に入学してからや、就職してからギャップ（リアリティショック）に悩むことがないように、作業療法（士）の具体的な活躍などを、積極的に啓発していけるとよいなと改めて感じました。

また「作業療法（士）を何で知りましたか？」に対しては、約半数は「インターネット」と回答しており、「家族・知人（33.3%）」「学校（29.6%）」と続きます。インターネットには大量の情報がありますが、玉石混交、決して正しいものばかりではないのも事実です。都士会として、有益かつ正しい情報を積極的に発信していくことも、これから益々重要になるのだと思います。引き続き、啓発の手腕を磨いていきたいと思っています。

子ども委員会活動報告 交流会を行いました

子ども委員会 長田 真歩

9月14日（土）に「東京発達OT 大交流会」と題して、発達領域で働いているOTや発達領域に興味があるOTの繋がりを作る機会になるような食事会を行いました。

参加者は子ども委員も含め38名で、千葉県や埼玉県で働くOTも参加してくださいました。働き先も様々で、病院のような医療分野で働いている方や児童発達支援センター・放課後等デイサービスのような福祉分野で働く方、役所のような行政の方で働く方など多岐に渡りました。

交流会中では、名刺交換や職場の情報交換、仕事で悩んでいることやケースの相談などの真面目な場面もありつつ、「今度〇〇一緒に食べにいきましょうよ!」のようなプライベートのことを話している場面も見られました。

発達領域で働くOTは増えてきていると感じると同時に1人職場の人や若手の方が多い印象です。私自身もOTが1人の職場で働いてきました。1人職場だと『自分のOTとしての働き方や見方は合っているのか?』と悩むことは多いと思います。そのような境遇の方に対しても今回のような交流会はとても意義のあるものになったのではないかと思います。

またこのような機会を企画しましたら、お知らせしますので興味ある方はぜひご参加ください。

子ども委員会は「学校の作業療法」のタイトルで研修会を開催します。

2024年12月22日（日）東京都立大学荒川キャンパスでお待ちしています。



地域づくり人材育成研修を終えて ～目黒区の実践報告～

目黒区介護保険課介護予防係 篠原 豪助

今年度より、目黒区介護保険課介護予防係で働いております。目黒区では、通いの場の立ち上げ、自主グループづくり、介護予防教室、短期集中予防サービスなど様々な介護予防事業を行っております。多職種の方々、地域包括ケアセンター、そして関係機関や部署と連携をとり、区民の方々の健康に寄与し、地域づくりに貢献する支援を実施しております。

私自身としては、住民主体の地域づくりに向けて、介護予防リーダーの養成、通いの場の支援、短期集中予防事業の支援、介護ケアマネジメント支援など、作業療法士として多岐にわたり活動しております。

このように関係機関や部署と連携を図り、多岐にわたる活動に携わることができているのは、地域づくり人材育成研修の基礎編・実践基礎編・実践編を通して、実際に地域でご活躍されている講師の方々やグループワークや情報交換ができたからです。講義中には、講師の方々の体験談を伺うことで、より地域での立ち振る舞いや行動について理解を深めることができ、とても今の業務に活かされております。

最後になりましたが、これから第2回地域づくり人材研修の実践編の開催を予定していると聞いております。基礎編、実践基礎編と研修を進めることで、より地域への理解や想いも深くなると思います。少しでも地域づくりに興味がある方が増えていただければ幸いです。

活動報告：認知症の日／アルツハイマー月間

認知症の人と家族の生活支援委員会 内田 達二

2024年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」により、9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と定められました。これは、国際アルツハイマー病協会と世界保健機構による「World Alzheimer's Day」と「World Alzheimer's Month」に対応しています。この期間には、世界的に様々なイベントが実施されます。

皆さまのお住まいの地区でもイベントが開催されていると思います。

さて、認知症の方を支援するため、日本作業療法士協会は、都道府県士会単位で年間を通して認知症の方に対する教育・啓発イベントを実施しているので参照いただきたいです。https://www.jaot.or.jp/ot_alzheimer/

当委員会では、1) 研修事業として、東京都作業療法学会内セミナー、2) 普及啓発事業として、①機関誌への執筆、②都民向けブログの運営 (<https://occupationaltherapyfordementiatokyo.wordpress.com/>)、③東京新聞ヘルスケアメイツ（健康増進や介護予防を目的とした会員組織）事業への協力、3) 育成事業として、①認知症アップデート研修、②認知症に関わる作業療法士の実態調査 等を実施しています。

本年度の認知症アップデート研修は、2025年1月に開催する予定です。「認知症基本法」施行後の認知症の方に対する作業療法的支援について、皆さまと考えていく機会にしたいと考えています。多くの方の参加をお待ちしています。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.47

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『若年認知症の人の“仕事の場づくり” Q&A「支援の空白期間」に挑む』

藤本直規・奥村典子／著

先日、若年認知症の就労支援を行っているNPOの本人ミーティングに参加させていただき、働かれていますご本人とお会いした。今回紹介する本は、若年認知症の人々が働く場を提供するための手引書で、著者の藤本直規氏と奥村典子氏は、認知症の専門医と看護師としての経験を活かし、具体的な支援方法をQ&A形式で解説している。そして、本人、家族、専門職、地域が連携して支援する方法をより具体的に病院で行われている実践の実践を通して説明している。

まず、藤本クリニックの取り組みとして、「仕事の場」とは何か、その意義や目的について説明し、取り組みの背景や動機も詳しく述べられている。次に、認知症と仕事の関係について、認知症の進行段階に応じた支援方法や、仕事を通じて認知症の症状がどのように影響されるかについて解説している。

さらに、実際の取り組みとして、具体的な活動内容やスケジュールの決め方、参加者の役割や作業内容についても詳しく紹介されている。このようなことから、どのようにして若年認知症の人々が仕事を通じて社会とつながり続けることができるかを読者は理解することができる。

最後に専門医療機関での取り組みの限界と可能性、公的支援や利用できる制度が紹介され、若年認知症の方々が社会とつながりを持ち続けるための実践的なガイドとして、多くの関係者の声を交えながら、若年認知症の人々を支援するための具体的な方法や工夫を得ることができる一冊である。

生活行為工夫情報事業の事例活用の報告

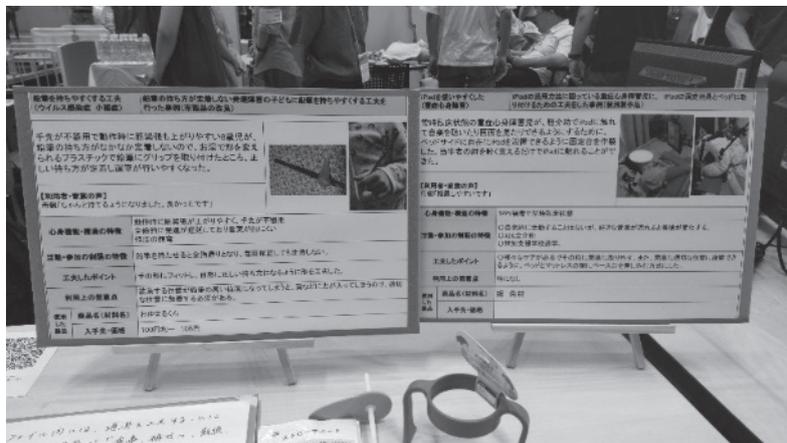
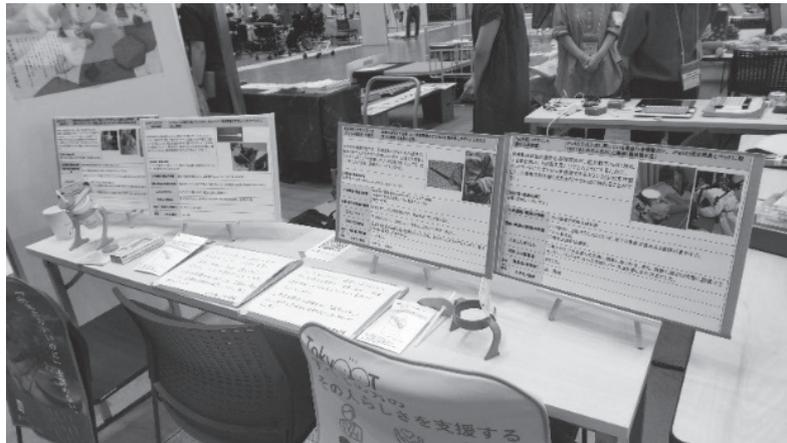
福祉用具部 部長 金子 大輔

2024年7月6日（土）、7日（日）の2日間、八王子にある東京たま未来メッセで「こどものための福祉機器展」が開催され、東京都作業療法士会として福祉用具部も参加しました。その際、東京都で事例登録されている「こどもの事例（31事例）」を、パネルとファイルで閲覧できるようにしました。当日は、家族さまや医療・福祉関連職の方々が、じっくりと見ている姿を拝見し、作業療法士が子どもへ支援できる具体的な方法を提示できるとても良い機会となりました。

また、事例を見ていただいた方のアンケート結果（44名）では、①ちょっとした工夫で「できないこと」が「できるようになること」を理解できた方は100%、②事例集にあるような工夫を作業療法士が行っていることを知らなかった方32%、③事例集をみて、作業療法士に相談してみようと思った方91%となっていました。

このような展示会や家族・多職種が参加される機会に生活行為工夫情報事業の事例集を活用することは、作業療法士をアピールするための有効な手段であるものと改めて感じました。

生活行為工夫情報事業の事例を活用してみたい、あるいはこのような活用はできないか等のご意見や協力依頼がありましたら、福祉用具部までお知らせください。



改造車の運転体験と指導方法を学ぶ研修会のお知らせ

自動車運転と移動支援対策委員会委員 大熊 諒

令和6年10月現在、脳損傷者等への運転再開支援を行なっている都内の医療機関は30箇所を超えています。ドライビングシミュレーターの中で多く使用されているホンダ技研工業（株）のHondaセーフティナビを導入している都内の医療機関は20箇所あります。多くの医療機関で支援の輪が広がっている背景の中、今回、指定自動車教習所に依頼し改造車（左手足や上肢操作の運転）の運転体験を通して、具体的な支援方法を学び参加者間で共有する研修会を企画しました。研修を通し、改造車の適応となる患者さんへの支援の質的向上を図ることが目的です。

今回の研修は、東京都作業療法士会自動車運転と移動支援対策委員会の主催で、株式会社 コヤマドライビングスクール二子玉川校にご協力いただきます。実際に教習所内で改造車の運転を体験でき、改造車の操作方法や注意点を教習指導員の方からアドバイスいただく貴重な機会になります。改造車の提案や操作時の注意点などを患者さんへ指導する際の具体的な情報を指導いただくことで、日頃、自動車運転再開に向けた支援を行う中で悩む点について解決する一助になればと考えております。

【開催概要】

- 対象：自動車運転再開に向けた支援を実際に行なっている施設
 - * 参加対象については、当委員会が把握している医療機関に直接ご連絡をいたします。ご理解のほどよろしく申し上げます。
- 定員：1回あたり6名定員（1施設あたり1～2名）
- 場所：コヤマドライビングスクール二子玉川校
- 日程：11月から12月にかけて順次開催（最大6回開催予定）
 - 11月10日（日）、11月17日（日）、11月23日（土）
 - 11月24日（日）、11月30日（土）、12月22日（日）
- 時間：各回いずれも 12時50分～15時20分
- 会費：1回あたり2万円（参加人数により前後；例：5名参加の場合は1人あたり4000円）
- お問合わせ先：自動車運転と移動支援対策委員会 大熊 諒 E-mail：okumar@jikei.ac.jp

就労支援委員会主催

オンライン就労支援事例検討会&研修会のお知らせ

就労支援委員会では、事例検討を通して会員の皆さんの就労支援に関する知識の向上やスキルアップを目的とした「オンライン 就労支援事例検討会」を年3回開催しています。

12月は、回復期病院における高次脳機能障害の事例について、委員が支援方法などについて検討をすすめていきます。参加者の方にはお聞きいただく中で、就労支援の実際を感じていただければと思います。

また、検討終了後には、皆さんの日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。OT同士の“つながりづくり”も大切にしたい、アットホームな雰囲気で行いたいと思っています。就労支援に取り組まれている方はもちろん、就労支援に興味のある方も、ぜひお気軽にお申し込みください。

日時：令和6年12月6日（金）19：00～20：30（開始5分前より接続開始予定）

会場：オンライン（Zoom使用）

内容：・事例紹介、就労支援委員会メンバーによる事例検討
・聴講者を交えての感想・質問などの意見交換、情報提供やアドバイス など

定員：10名

対象：東京都作業療法士会 会員

参加費：無料（会員の方が対象です）

申込み：【QRコード】、【URL】 <https://x.gd/2zRaW>、【東京都作業療法士会ホームページ】のいずれかよりお申込み下さい。

申込期限：令和6年12月4日（水）17:00 まで

問合せ先：就労支援委員会 直通アドレス shuuroushien.tokyo.ot@gmail.com



また、2月には委員会主催の研修会を開催します。詳細は同封のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

申込用QRコードは
こちら

OT都士会災害派遣登録バンクのご案内

都士会災害対策担当 松岡 耕史

〈災害派遣登録バンクについて〉

近年、地震や台風などによる大規模災害が多く発生しています。東京都において大規模災害が発生し、避難所等での災害リハビリテーションに関する支援が必要な場合、OT協会やJRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）、東京都や区市町村と連携しながら支援活動を行います。都内で災害発生時、必要に応じて都士会から作業療法士の派遣がスムーズに行えるようにするためのシステムの構築を目的に、「災害派遣登録バンク」を設置します。

〈支援内容〉

東京都で大規模災害が発生し、東京都や区市町村から災害リハ支援における作業療法士の派遣が要請された際、主に避難所への支援に入っていただきます。避難所での支援内容は、環境調整（段ボールベッドや簡易手すりの設置等）や対象者への生活不活発病予防の指導等になります。

〈バンクへの登録にあたり支援経験の有無に関して〉

バンクへの登録にあたり、災害リハ支援の経験の有無は問いません。

東京都内で災害が発生した際に作業療法士として力になりたいと希望される方はご登録をお願いします。

〈災害リハ支援に関する人材育成〉

発災時、避難所へ支援に入っていただくバンク登録者には事前学習用の資料を提示致しますが、平時から災害リハ支援に関する人材育成のための研修会を開催する予定です。ブロックや東京都三士会、東京都JRATと協力しながら災害リハ研修会を開催しますので、バンク登録者へ研修会情報をお伝え致します。また、災害時の支援活動に関して以下の研修会などが参考になりますので是非ご参加ください。

JIMTEF災害医療研修（ベーシックコース）、JIMTEF災害医療研修（アドバンスコース）、
BHELP（地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース）、PFA（心理的応急処置）、
REHUG（大規模災害リハ支援チーム本部運営ゲーム）、DMAT隊員養成研修

〈バンクへの登録方法〉

下記のURL、もしくはQRコードから登録用Googleフォームへ入り、災害派遣登録バンクへご登録ください。

URL : <https://forms.gle/jm5TELQU1dSfmN6Q8>



QRコード

〈お問い合わせ先〉

OT都士会災害派遣登録バンク専用メールアドレス：saigaihakenotbank@gmail.com（担当者：松岡）

ブロック活動のお知らせ

西部・西南部ブロック

野尻 結子

区西部西南部ブロックの野尻です。

児童発達支援事業所で働いていますが、最近はお子さん達が、絵を描く時に黄色や茶色などの色を使うようになってきており、季節の変わり目を感じています。当ブロックでは、今年度も認知症アップデート研修を開催すべく、活動を開始しています。参加者の皆さまに有意義な時間を過ごしていただけるよう、準備を頑張っていきたいと思っています！最後に、ブロック活動に興味のある方を募集しています。活動を通じて、色々な分野・施設の話ができ、自分のスキルアップにも繋がります。また、各区でOTを盛り上げる活動も行う予定です。是非興味のある方からのご連絡お待ちしております！

seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

山村 謙一

ようやく本格的な秋が到来したと感じる今日この頃です。私たち区西北部ブロックは上半期の24年度東京都作業療法学会運営を終えて、下半期の活動計画を進行しているところです。皆さんが参加したいと思えるような研修会や交流会を企画できればと考えています。

今回は来たる10月19日に私の勤務先で開催される「秋祭り」の準備の様子をお伝えしたいと思います。今年も昨年同様新型コロナウイルス発生前と同じ規模での開催とはいきませんが、4年ぶりに開催された昨年よりも大きい規模で開催されることとなります。模擬店を出店する地域団体や職員の数も増え、患者様が参加するお神輿も復活します。学生ボランティアも多数参加してくれます。作業療法で携わった患者様や利用者様の作品も展示、販売される予定で皆さんも気合が入っています。夏祭りは猛暑の中の開催だったため何かと制限がありました。この記事が投稿される頃は人々が一番動きやすい時期となっている頃で夏祭りよりも多くの人々が今回の秋祭りに参加されると思います。地域の方々と一緒に秋祭りを盛り上げ、患者様方に笑顔をお届けできるよう頑張りたいです。

区西北部ブロックでは一緒に活動してくれる仲間を募集しております。興味ある方は連絡お待ちしております。
連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区東部・東北部ブロック

二村 元気

先日に第21回東京都作業療法学会のキックオフミーティングが開催されました。第21回東京都作業療法学会は2025年7月13日（日）に開催予定です。近日中に学会HPもお披露目予定となります。また、私は本学会において演題担当を拝命いたしました。演題担当として、皆様に演題の登録をお願いしたいと思います。演題募集は2025年1月中旬より開始しますので、参加を検討されている方はぜひ演題を準備してご参加ください。実行委員一同、皆様にとって学びの多い学会となるよう準備を進めております。また、この学会を盛り上げてくださる実行委員も募集していますので、ご興味のある方はぜひご応募ください。

区東部・東北部ブロック連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック**上原 亮介**

当ブロックでは12/14(土)に東京工科大学蒲田キャンパスにて、スプリントに関するハンズオン研修を計画中です。急性期から生活期に至るまであらゆる病期にて活用機会がありそうなスプリントを実際作成する予定です。また3Dプリンタを活用したスプリント作成についての情報提供も行います。ブロック外の方も参加対象ですので、ご興味ある方はぜひご参加下さい！詳細が決定次第、士会ホームページやFAX通信にてご案内致しますのでお待ち下さい。またブロック活動をいっしょに盛り上げていただける仲間を募集しております。ブロック委員同士で学会発表の予演会を開催するなどインフォーマルな交流もしています。ご興味ある方はお気軽にku.chuou.nanbu.ot@gmail.comにご連絡ください！

北多摩ブロック**有賀 正亮**

様々な領域で活躍しているOTがつどい、気兼ねなく語り合ことができるツドイノバを当ブロックでは定期的に開催しています。今回は11月22日に「OTの引き出しを増やそう～アクティビティの紹介～」を、12月22日には対面でのツドイノバを立川にて開催予定となっています。様々な施設・分野で活躍しているOT同士の良い交流機会となっていますので、皆様のご参加をお待ちしております。10月6日には昨年に引き続き、府中市の福祉まつりへの参加を行ってきました。フェイスペイントやOTの認知度調査、クッキーの販売などを行い、地域の方々との交流やOTについての説明などを行うことができ、大いに盛り上がった一日となりました。北多摩ブロックでは私たちと一緒にブロック活動を盛り上げてくれる方を募集しています。またインスタグラムでは活動報告やブロック委員の自己紹介など随時発信していますので、是非のぞきにきてください！

@kitatama_ot

*ブロックメンバーも引き続き募集中です。ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。
ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック**橋本 梨花**

皆様はじめまして。2024年4月より西多摩・南多摩ブロックに参加させていただいております、橋本と申します。ブロック活動を通して職場以外のOTの方々との交流に胸を膨らませ、大学時代の同期と再会するなど、多くの出会いに感謝しております。10月25日にはオリジナル研修会として「はじめての自動車運転支援～医療機関での支援のあり方～」を開催させていただきました。この原稿執筆時には準備段階ではありますが、大成功を収め、多くの方が自動車運転支援に興味を持ってくださっているのではないのでしょうか？

今後も様々な企画を予定しております、続報をお待ちください！

ブロックメンバー大募集！ご興味ある方はご連絡下さい⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

都士会公式SNSの紹介

広報部

都士会で所有している公式のSNSのアカウントです。みなさん、ぜひフォローして下さい。また、SNSで発信してほしいことなど会員の皆さんから様々な意見をお待ちしています。



LINE



Facebook



Instagram



X

編集後記



先日、私が所属している専門学校の卒後教育の特別講師に日本作業療法士協会会長の山本伸一先生をお招きしました。会長の診療報酬を維持する為の渉外活動、国際交流、職域拡大、JRATなど、様々な活動紹介がありました。我々の報酬向上にも尽力されていました。組織率が低下している中、作業療法士の地位向上に真摯に向き合っておられる大きな背中を見ることが出来ました。私も都士会広報部の役割を果たせるよう楽しんで精進して参ります。

広報部部长 野村哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL : 03-6380-4681 FAX : 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。